

日本観光、スマホで案内

NTTなど 羽田空港で実証実験

NTTとパナソニックは3日、スマートフォン（スマホ）などを使って外国人観光客にスムーズに案内するシステムの実証実験を羽田空港で始めた。空港内の案内表示などにスマホをかざすだけで、母国語で施設や移動手段などの案内が表示される。音声ガイドもあり、東京五輪が開催される2020年までの実用化を目指す。

NTTはスマホなどで「ご案内」などと書かれた看板を撮影するだけで、自動で母国語の案内が表示されるシステムを開発した。構内の地図にバスや鉄道、レストランの位置が表示される。一方、パナソニックは歩きながらスマホを見る人が増えると危険なため、目的の案内表示まで音声で案内する技術を開発した。「右にエレベーターを、左にチケット売り場を見ながら直進してください」など

と具体的に指示を出す。空港構内は全地球測位システム（GPS）がつながりにくいため近距離無線通信の「ビーコン」を使って位置を割り出す。スマホによっては専用アプリをダウンロードする必要があるので、空港内の無料WiFiに接続する際に案内を表示するといった方法を検討する。